

岐阜県の森林・林業

森もり林のたより

緑の育成と樹木保護保存セミナーを
開催しました。

No.783
2018 December

12

FREE

ご自由にお持ちください。



▲庭木の管理の講義



▲低木の刈込(イヌツゲ)



▲曲幹散らし玉仕立て(イヌツゲ)



▲不定形の剪定説明(モミジ)

●11月4日に開催した「緑の育成と樹木保護保存セミナー」の様子です。
詳しくは、7ページをご覧ください。

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	開催場所 問い合わせ先
12月6日(木)~ 12月21日(金)	平成31年度 森林文化アカデミー 入学試験(第3回) 願書受付期間	<ul style="list-style-type: none"> ●森と木のエンジニア科(一般入試2) 1月12日(土) ●森と木のクリエイター科(入試3) 1月13日(日) ●入学願書(学生募集要項)については、ホームページ(https://www.forest.ac.jp/)からダウンロードできます。 	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) ----- 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL https://www.forest.ac.jp/
①1月12日(土) ②1月13日(日) ③1月26日(土)~ 1月27日(日)	清流の国ぎふ 森・里・川・海× つながLINK 親子体験ツアー (冬コース)	①1月12日(土) 「ハリヨ博士から学ぶ絶滅危惧種『ハリヨ』の秘密とアクア・トトぎふバックヤード見学ツアー」 ●定員:30名 ●参加費:大人3,400円、小人2,600円 ②1月13日(日) 「冬のひるがの高原で動物の足跡を探そう! かまくら作りとかんじき体験で雪国の自然を大満喫!」 ●定員:30名 ●参加費:大人、小人4,900円(同額) ③1月26日(土)~27日(日) 「雪の森を体感しよう! 冬の世界遺産里山イグルー作りとスノーシュー体験」 ●定員:20名 ●参加費:大人 19,800円(夕食:フレンチハーフコース) 大人 21,900円(夕食:フレンチフルコース) 小人 14,800円(夕食:フレンチハーフコース)	①各務原市・アクア・トトぎふ、自然発見館 他 ②郡上市高鷲町ひるがの ③白川村・トヨタ白川郷自然学校 ※発着地はコースによって異なります。 ----- 株式会社日本旅行 TEL 0570-666-501 WEB「清流の国 日本旅行」で検索
1月19日(土)	みどりの少年団 活動発表大会	<ul style="list-style-type: none"> ●みどりの少年団の日頃の活動について団員が発表します。航空宇宙博物館の見学もあります。 ●時間:10:00~15:30(予定) ●発表者の申し込みを受け付けています。 ●参加料:発表者及び引率者は無料。保護者等は航空宇宙博物館の入館料が必要です。 	岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 ----- 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL 058-273-7577 FAX 058-273-7547 E-mail gifu-ryokusui@mtj.biglobe.ne.jp



市況	18
林業者向けお知らせ	17
国・有林の現場から	17
中部北陸自然歩道の紹介	16
第58回治山研究発表会に参加しました	16
普及コーナー	14
郡上森林マネジメント協議会(仮称)	13
山火災害リスクを考慮した木材生産のために	13
研究コーナー	12
複雑に見える森づくりをシンプルに考える	12
森林と人を活かす知恵	11
シリーズ⑦『森林・環境税で緑豊かな清流の国ぎふづくり』	11
シリーズ⑥『森林・環境行政』	10
わがまちの森林・環境行政	9
山のおみやげ(329)	9
大野町子育てはうす	8
木の香るぎふの施設	7
平成30年度森の名手・名人認定証伝達式が行われました	7
開催しました	7
「第26回緑の育成と樹木保護保存セミナー」を	6
山の歳時記	5
木材の利用推進について知事へ要望	5
木質バイオマス利用に向けた支援	5
100年先の森林づくりシリーズ5	4
伐採設置制度を創設します	3
低コスト再造林の取り組み	2
イベントカレンダー(一般向け)	2

岐阜県の森林・林業 News of the forest

森もりのたより

No.783 12
2018 December

表紙●11月4日に開催した「緑の育成と樹木保護保存セミナー」の様子です。

低コスト再造林の取り組み (苗木生産について)

岐阜県森林づくり基本計画(H29～H33)において、木材生産林では持続可能な林業経営を行う森林を目指し、人工林の年齢構成の平準化を図るため、再造林を推進しています。

再造林を推進するにあたって、苗木の安定供給は必要不可欠であり、また再造林コストが森林所有者の大きな負担であるという課題があります。そこで、県では苗木生産の労務軽減が図られ、植栽経費などの低コスト化が期待できるコンテナ苗の利用促進を進めています。

今回は、県内のコンテナ苗の生産状況と生長や材質などに優れた特定母樹や花粉症対策として期待される少花粉品種の種子の確保に関する取り組みについて報告します。

コンテナ苗の生産状況

コンテナ苗とは、育成孔の内側に設けたりブ(縦筋状の突起)などにより、水平方向の根巻きを防止するとともに、容器の底面を開けることで垂直方向に空気根切りができる容器によって育成した、根鉢付きの苗です。

コンテナ苗の生産を開始した苗木生産者からは、以前までの裸苗の生産と比較して、散水の簡易化や棚の上での生育となるために屈んだ作業が減少し、労働負荷が軽減されたとの声が聞かれます。

また根鉢付きのまま植栽することで、強い乾燥期や積雪期などを除いて通年で植栽が可能であり、優れた活着率が確認されています。また、植栽器具を使用することで、植付時間の短縮など作業行程の効率化が図られ、植栽経費などの低コスト化が期待できます。

県では、新たな育苗技術であるコンテナ苗の生産拡大を図るため、平成26年度から残苗等への補償、平成27年度から生産施設導入に対する補助事業を実施してきました。県内のコンテナ苗の生産は、平成26年度の1事業者4,000本の生産からはじまり、平成29年度には11事業者(うち法人3社)で約43万本が生産されています。その内訳は、スギ苗木が約21万本、うち少花粉スギ苗木が約8万本、ヒノキ苗木が約21万本、その他が1万本です。

補助事業の活用等もあり、県内のコンテナ苗生産量は増加傾向にありますが、民有林でのコンテナ苗の植栽本数は、全植栽本数に対して1割程度と低調であることから、今後はコンテナ苗の利用の向上に向けて、植栽を実施する林業事業者などへの普及を図っていきたいと考えています。



コンテナ苗生育状況(富加町地内)

優れた品種の種子確保の取り組み

「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法(平成20年法律第32号)」に基づき定めた本県の「特定間伐等及び特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本方針(平成27年3月24日付け森第1152号の岐阜県知事通達)」において、再造林の際、従来の種苗よりも成長に優れたものを広く利用していくことが極めて重要とし、成長の特に優れたものとして農林水産大臣が指定するもの(特定母樹)の増殖の実施を促進することとしています。

県内においては、住友林業(株)が下呂市乗政において計300本のスギ特定母樹の採種園の整備を行っています。平成34年度から一部採種開始の予定で、採種された種子は、岐阜県下呂林木育種事業地内に整備された住友林業(株)の岐阜樹木育苗センターで苗木に育成されます。現在の事業計画では、平成35年度から年間100万本の苗木が生産され、県内の造林地に優先的に出荷される予定です。



住友林業(株)(下呂市乗政地内)
特定母樹採種園整備状況



森林総合研究所 林木育種センターから購入した苗木。
育成後ハウス内にて閉鎖型採種園とする。(同左)

少花粉スギの採種園の整備

県は社会的な問題となっている花粉症の対策として、花粉の飛散量が極めて少ない少花粉スギ苗木の生産に必要な種子の確保を進めています。その取り組みとして、県が管理する白鳥林木育種事業地では平成21年度に少花粉スギ採種園約0.2haを整備し、平成29年度には9.5kgの少花粉スギ種子を生産し、8.0kgを県内苗木生産者へ配布しました。また平成28年度から白鳥林木育種事業地と、下呂林木育種事業地でそれぞれ約0.2haの少花粉スギ採種園の造成を行っています。これにより平成39年度には苗木34万本に相当する種子を生産できる見込みです。



H28 少花粉スギ採種園設定地
(白鳥林木育種事業地)

再造林面積の増加に対応するため、多様な優良苗木の安定供給が必要となっており、県では優良品種の種子の生産拡大に努めてまいります。

ばっ さい ばた 伐採旗設置制度を創設します。

平成31年4月1日以降に皆伐(普通林は1ha以上)を行う場合は、伐採現場に伐採旗を設置します。

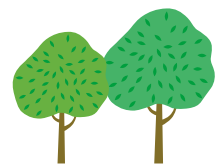
1 伐採旗の設置が必要なのか？

県内では平成29年度に6件(皆伐に係るもの)の無届伐採などの違法伐採が発生しています。また、県では「第3期岐阜県森林づくり基本計画」に基づき、将来にわたり森林資源を循環利用していくために、「木材生産林」の伐採と再造林を推進しています。一方で、森林の適正な管理という観点ではルールをしっかり守っていただく必要があります。そこで、伐採旗の設置により合法伐採箇所の判別を容易にすることで、違法伐採の防止を図るとともに環境に配慮した皆伐を進めるための伐採旗設置制度を創設します。

2 伐採旗を設置する伐採とは？

下記の伐採を行う現場に伐採者が伐採旗を設置します。

種類	旗の設置対象	設置する旗	旗の交付者
普通林	1ha以上の皆伐	伐採届出旗	市町村
保安林	すべての皆伐	伐採許可旗	県



伐採旗のデザイン

伐採届出旗



伐採許可旗



3 伐採旗の交付を受けるには？

- 普通林：森林法第10条の8第1項の届出に係る伐採
- 伐採者は「伐採及び伐採後の造林の届出書」を市町村に提出し、伐採届出旗の交付を受けてください。
- 普通林：森林法第15条の届出に係る伐採(森林経営計画に定める伐採)
- 伐採者は伐採開始前に「伐採届出旗交付申請書」を市町村に提出し、伐採届出旗の交付を受けてください。
- 保安林：森林法第34条第1項の許可に係る伐採
- 伐採者は「保安林内立木伐採許可申請書」を県(農林事務所)に提出し、伐採許可旗の交付を受けてください。

4 伐採旗はどこに設置するのか？

伐採者は伐採現場の周囲からよく見える場所に、樹の幹や枝、支柱などを使って設置し、紛失等しないようにしっかりと固定してください。

5 設置した伐採旗は伐採後どうするのか？

- 普通林：人工造林又は天然更新終了後に「伐採及び伐採後の造林に係る森林の状況報告書」又は「森林経営計画に係る伐採等の届出書」とあわせて伐採届出旗を市町村に返却してください。
- 保安林：伐採終了後に「保安林内立木伐採届出書」とあわせて伐採許可旗を県(農林事務所)に返却してください。

第3期岐阜県森林づくり基本計画（H29～H33）では、望ましい森林の姿へ配置転換する「100年先の森林づくり」、林業経営を重視した「生きた森林づくり」、環境保全を重視した「恵みの森林づくり」に取り組んでいます。これらの取組状況について、隔月連載でご紹介します。

地産地消型木質バイオマスエネルギー活用プロジェクト

木質バイオマス利用に向けた支援

地産地消型の木質バイオマスエネルギー活用による環境にやさしいまちづくりへの支援のため、木質バイオマス利用施設（年間2施設）の整備を進めています。

昨年度は、高山市内において、温泉施設への熱供給施設の整備や、木質燃料を安定的に供給できるよう、燃料の製造や運搬に必要なチップパー機や搬送用トラック、専用コンテナ等の整備に支援をしました。

また、未利用材の利用拡大を推進するために、郡上市内において県内の木材生産業者（40名）を対象に研修会を開催しました。

さらに、今年度からは、県内の森林（民有林）に放置されている未利用端材を燃料利用する場合に限り、森林内から燃料加工施設への積込運搬に係る経費（1,000円/ト）を支援し、未利用材の搬出を促進します。



温泉施設ボイラー(高山市)



未利用端材等搬出状況(中津川市)

地産地消型木質バイオマス エネルギー活用プロジェクト

地産地消型木質バイオマスエネルギーの活用を進めるため、燃料の安定供給体制を構築するとともに、地域分散型の木質バイオマス利用施設を整備し、地域内で資源の循環利用ができる体制を整備するプロジェクトです。

【県産材流通課 野田 正樹】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8483 県産材流通課まで

木材の利用推進について 知事へ要望

岐阜県木材利用推進協議会（以下「協議会」）は、「十月八日は木の日」にちなんで、県に対し、木材利用に関する要望を行っています。

平成三十年十月十七日（水）、協議会の構成員二十三名が県庁を訪問し、岐阜県木材協同組合連合会の会長を務める協議会の丸山輝城会長が、古田知事に要望書を手渡ししました。

この中で、県庁舎再整備への更なる木材利用や東京オリンピック・パラリンピックへの更なる木材利用、公共・民間建築物における木材利用



の推進、木育の推進などの要望がありました。

さらに、森林施業地の確保や林業従事者の確保と育成、森林環境譲与税（仮称）の使途についての発言要望もありました。

知事は、県庁舎再整備や東京オリンピック・パラリンピックへの県産材利用について取り組んでいくことや「（仮称）木のふれあい館」を拠点とした木育の推進について述べ、また今年四月に開所した「森のジョブステーションぎふ」の積極的な活用を求めました。

【県産材流通課 遠藤 美幸】



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

年越しに聞く除夜の鐘。梵鐘をつく撞木（しゅもく）はマツ材が高級とされますが、最近では多くの寺院でシュロ（棕櫚）が利用されています。

そもそも撞木にはマツの心材（赤芯）が最適とされ、丸太を縦に四つ割りした芯去り材を丸く削り直して用います。奈良市の業者さんによると、丸太のままでは打鐘で丸太が割れるため四つ割りするのですが、最近では国産の太いマツ

が手に入らないため外国産のマツ材やヒノキ材を使うこともあるそうです。

シュロは中国南部原産の雌雄異株植物で、日本で生育するヤシ科植物の中でも最も耐寒性が強いため東北地方でも育ちます。

シュロは古来、神の依代となる聖樹として、神紋として尊ばれ、葉には魔除けなどの霊力があると考えられたため、神社や寺院に植えたり、家紋（立ち棕櫚、抱き棕櫚）や旗印に取り入れられました。

日本で見られるシュロは2種あり、掌状に切れ込んだ大きな葉の先が折れて垂れ下がるワジュロ（和棕櫚：Trachycarpus fortunei）と、やや小さめの葉が先まで真つ直ぐなトウジュロ（唐棕櫚：Trachycarpus wagnerianus）に分類されます。属名のTrachycarpusはギリシャ語の「trachys（やらい）+ carpos（果実）」の意味で、10月頃に藍黒色に熟す球形の液果から

来ています。葉柄の基部は幹に接する部分で大きく三角形に広がり、ここから下30〜50cmに褐色の繊維質な「棕櫚皮（葉鞘繊維）」が幹を包み込んでいます。

シュロは多方面で利用価値があり、若葉を帽子や敷物、雪駄など編み物に、若い花序は食用としました。他にも、葉や果実、花を高血圧や脳出血の予防、治療用に用い、皮と根の乾燥品は止血剤に効果があるとされました。特に多く利用されたのは皮と幹（茎）で、皮を煮沸して亜硫酸ガスで燻蒸後、乾燥させた「晒葉」は耐水性があり、腐りにくく伸縮性に富む特性がありました。このため縄や敷物、雨合羽、ホウキ、たわし、刷毛、下駄の鼻緒などに利用しました。また、幹は鉢や盆、撞木に用いました。さて、撞木にシュロが多用されるのは、他の木材に比べて繊維質で柔らかく、梵鐘を傷めないため、音が柔らかいため遠音が利かない

とされます。音色だけで言うならば、年月を重ねてよく乾燥した重い木が良いのですが、カシやケヤキでは硬すぎて梵鐘を傷めます。

大晦日の「除夜」は「古い年を押しつけて、新年を迎える夜」、「一年の迷いを除く夜」を意味し、除夜に百八の煩惱の数だけ鐘を撞いて一年を振り返って反省し、清らかな気持ちで新しい年を迎えるのです。この風習は中国の宋時代に始まり、日本に伝わった鎌倉時代には朝夕二回百八の鐘を撞いていたものが、室町時代には大晦日だけになってしまったのです。



▲寺院に植えられているトウジュロ

「第26回 緑の育成と樹木保護保存セミナー」を開催しました

11月4日、池田町八幡公民館において、「第26回緑の育成と樹木保護保存セミナー2018」を岐阜県緑の博士（グリーンドクター）協議会と共催で、「身近な緑を大切に ～プロから学ぶ樹木管理～」をテーマに次のとおり開催しました。

- | | | |
|----|------------------------------|-----------------|
| 座学 | 1 樹木（植木庭木）の生態 | 講師：坂井 幸康（GD2A級） |
| | 2 庭木の管理について | 講師：竹中 辰夫（GDA級） |
| 実技 | 剪定教室（実際に剪定を行ってみる。） 講師：庭師の皆さん | |

身近な緑である庭木の管理については、木の正面をよく見て形よく仕上げることを頭に描きますが、剪定する枝の選び方、或いは将来を見越して残す枝の選び方、残した枝の成長予測など、樹種ごとの特性を頭に入れて、あらゆる方向から木を見て剪定することが大事です。また、鉢を入れる箇所についても、芽の付き方や花芽の有無などによって違いがあるなど、短い時間でしたが、庭師の皆様から指導やアドバイスをいただき、多くのことを学びました。

このセミナーは、来年度も開催しますので、皆様のご参加をお待ちしています。



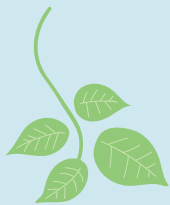
樹木の生態の講義



刈込の説明（イヌツゲ）



生垣の刈込剪定（キンメツゲ）



剪定作業（イヌマキ）



すかし剪定作業（モミジ）



花芽などのポイント説明（ツバキ）

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎 隆司】

平成30年度 森の名手・名人認定証伝達式が行われました

今年度の「森の名手・名人」に認定された伊藤 勉さんへ、尾藤 義昭 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会会長（岐阜県議会議員）から 高井 哲郎 林政部長の立会のもと、認定証をお渡ししました。伊藤 勉さんのプロフィールは次のとおりです。

森の名手・名人に認定された方

伊藤 勉さん（85才） 各務原市 **森づくり部門**（苗木生産）

昭和37年から山林種苗の生産を始められ、昭和52年から各務原山林種苗組合の組合長を務められています。酸性度の高い黒色土壌（黒ボク土）を改良しながら圃場を整備し、根切りや床替え等、適切な管理を行い、55年以上にわたって山行苗の生産を続けられ、コンテナ苗の生産にも取り組まれています。現在では、息子さんやお孫さんと共に、三世代で苗木生産に励まれています。

■認定証伝達式



写真 左から尾藤会長、伊藤さん、高井林政部長

「森の名手・名人」とは

森や山に関わる樵（きこり）、マタギ、炭焼きなどの生業において優れた技を極め、他の模範となっている達人について、「森づくり」「森の恵み」「加工」「森の伝承・文化」の4部門を設けて、公益社団法人国土緑化推進機構が「森の名手・名人」に認定しています。

なお、平成14年度から始まった「森の名手・名人」の認定は、今年度でひとまず終了し、来年度からは形を変えて実施される予定です。

平成30年度現在の認定状況

全国の認定者数…………… 1,404名（本年度76名）
岐阜県の認定者数…………… 51名（本年度 1名）全国3位

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎 隆司】

大野町 子育てはうす ぱすてる

揖斐郡大野町大字下磯313番地2



①施設全景

施設概要

事業年度	平成29年度
事業主体	揖斐郡大野町
構造・延床面積	木造1階建て 357.74㎡
施設用途	子育て支援施設
木材使用量 使用樹種	県産材使用量 92.06㎡ 主な使用樹種 スギ・ヒノキ
事業費	83,538千円（建築）
助成額	6,069千円（県産材需要拡大施設等整備事業）
設計者	大建設計・大日コンサルタント設計共同企業体
施工業者	山本産業株式会社
工期	平成29年6月～平成30年3月

大野町 子育てはうす ぱすてるについて

大野町 子育てはうす ぱすてるは、大野町の道の駅「パレットピアおおの」にある子育て支援施設であり、子育て中の保護者の孤独感や不安感の緩和を図り、子どもの健やかな育ちを促進するため、主に乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所として開設しました。

子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行い、地域の子育て支援機能の充実を図ることを目的としています。



②構造・内装材は100%県産材を使用。
施設の中央の柱にΦ400のスギ丸太、
床にスギの無垢材を使用。

ここに注目！！

平屋建てで、木のぬくもりと香りを感じられる空間となっています。木のおもちゃをふんだんに取り入れており、子育て親子に大いに遊んでもらえる場となっています。

利用者の様子

「木のおいがすごくして、子ども達もとても楽しそうに遊んでいる。」「木のおもちゃがたくさんあるので、いつまでも遊んでいられる。」と町内外問わず、多くの親子に親しまれ、楽しんでいただいています。



③図書コーナー

④木製遊具



写真：大野町

■お問い合わせ先

揖斐郡大野町役場民生部「子育てはうす ぱすてる」

TEL 0585-34-1010



山のおじゃまむし



— ついに終着駅、ギフチョウ — 【第329回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

ある期間を一緒に過ごしたものが集まる列車（同窓会など）には必ず終着駅がある。このことは知ってはいたが、私の乗っている原山会という列車は、まだ数年は走り続けるだろうと思っていた。ところが、ある日突然急停車。そのまま終着駅となってしまった。それは原山会幹事から届いた一通の手紙。冒頭に、原山会を解散しますと書いてあったからである。「どうとう来たか。少し早かったな。」覚悟はしていたものの、現実と直面すると、やはり寂しくなる。この列車は50年以上走り続けた。想像した以上の長旅だった。乗客は、かつて高山市にあった岐阜県林業試験場で、一緒に仕事をした仲間たち。私はこの列車に昭和37年に乗った。もう56年前になる。当時の林業試験場は木造平屋建て。これがアカマツの散在している構内に何棟もあった。春になるとギフチョウが舞い、夏には暑さを和らげるセミの音、秋には夜長を鳴きとおす鳴き虫たちの大合唱が耳を打つ。虫好き人間の私には、夢のような職場であった。仕事の合間に昆虫を採った。特に貴重種のギフチョウ。これを狙って採ったものだ。ある日、構内でギフチョウを採っている者がいた。虫友の故N氏だった。N氏は言った。「ギフチョウを採りながら仕事ができるのか。うらやましいな。」私もその通りだと思った。そのN氏はこの世にいない。この言葉だけが私の頭の中で眠り続けている。しかし、時の経過とともに環境も変化。いつの間にかギフチョウはいなくなってしまった。

× × × ×

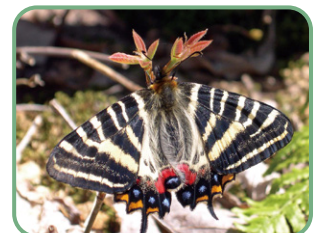
当時は皆若かった。活気があった。テニス、卓球、野球、スキー、麻雀、囲碁などいろいろなことをやった。冬には昼休みに数人で近くの原山スキー場へよく出かけた。そのうちにリフト係のおじさんと仲良くなり、時々無料にしてもらった。今ではあり得ないことだ。きつかったのは野球の練習。人が足りないので若手は全員駆り出された。しかし戦力にならないものが数人いた。私もその一人で、練習中にボールが田んぼに飛んでいくと、これを拾いに行かされたものだ。しかし、球は泥の中。探すのに苦労した。夜になると飲み会。これが楽しみだった。日本酒をヤカンに入れて、これを薪ストーブでわかして茶碗で飲んだ。飲み助が多かったのも、あつという間になくなってしまふ。そして市内の繁華街へ行くのが、お決まりのコースであった。安い居酒屋でトンチンを食べて、軍歌を歌いながらのコップ酒。実に楽しかった。しかし、この楽しい列車も車庫へ入ることになった。昭和45年3月31日、林業試験場が無くなったからである。この列車は車庫へ入っていった。

× × × ×

それから7年後、乗客だったNさんが退職された。当時、Nさんは「おばさん」と呼ばれ、職員の食事をつくっていた。料理はほとんどが田舎料理。見た目は悪かったが、味は絶品。とにかく美味しかった。言葉は飛騨弁丸出し。誰にでも話しかけ、時には注意することもあった。「そんなことして駄目なんやさー」「あれ、はんちくたい」よくこの言葉を耳にしたものだ。おばさんは気さくで人柄がよかった。皆から慕われた。このため、かつての仲間と送別会を開いて、長年の労をねぎらってやろうという声があがってきた。久しぶりに皆で酒を酌み交わした。おばさんは大喜びであった。この送別会で再び列車原山号が動き出したのである。初めは数年に1度であったが、そのうちに毎年実施されるようになった。毎回20数名が参加し大盛況であった。飲んで歌って踊るなどした。それが10数年後、おばさんが倒れた。意識不明のまま長期療養。結局、おばさんは8年間眠り続けて天国へ旅立たれた。おばさんのお陰で復活した原山会。この列車を止めようという声は上がらなかった。

× × × ×

その後も毎年原山会は開かれた。しかし、皆歳をとっていき、体調を悪くして欠席する者が多くなってきた。悲しいことに数名が天国へ旅立ってしまった。その一人であるK氏は、ある時「俺は今回の原山会が最後だろう」と私にささやいた。「そんなことないよ」と私。これがK氏と私が交わした最後の言葉となってしまった。今でもその言葉が脳裏を去来する。参加者が少なくなれば原山会を続けるのは難しい。誰もが思い始めた。そんな時、ある人から「毎回出席者から1000円徴収して貯めておき、最後に残ったものがそれを手にする」という名案?が出された。これを目当てに出席してほしいと言うのである。皆は大賛成。それを目指して出席した。それでも増えなかった。それと平均年齢が80を越えてしまった。これ以上続けるのは無理。それで幹事は解散することにしたという。半世紀にわたって走り続けた原山号がついに終着駅に到着。心残りはあったが、楽しい旅行だった。その思いにふけっていると、突然目の前にギフチョウの大群。それが優雅に舞い始めた。その中におばさんがいて、飛騨弁で話しかけてきた。「なんや、もう帰ってきたんか。だしかなー。でも疲れたやろ。せいで帰ってあんきにせや。」こんな光景が目には浮かんできた。



▲舞いを終えて休止しているギフチョウ



里山千年構想とアベマキ

美濃加茂市の森林づくり施策を紹介します。



美濃加茂市には、総面積の39・6%にあたる2965haの森林があり、そのうち人工林が770ha、天然林が2100haとなっています。美濃加茂市は林業が盛んな場所ではなく、かつては人が生活に必要な資源を得るために出入りした里山であり、その生活の中で適正に管理が行われていました。しかし、生活様式の変化等で次第に里山は放置され、次第に竹林が広がる荒廃した里山になってしまいました。荒廃した里山は野生動物の住処となり、農作物被害の増加に繋がってしまいます。

そこで、美濃加茂市は「里山千年構想」を掲げ、荒廃した里山を再生することで野生動物が住みづらい里山をめざし、岐阜県森林・環境基金を活用した「計画的な里山整備」、整備後の森林空間を居場所とする「里山空間活用」、里山の樹木を価値あるものにする「里山資源活用」、そして、侵入竹でなくなってしまう広葉樹の森を復活させるための「森づくり」を実施しています。ここでは、「アベマキ」を里山再生の象徴として展開している事業を紹介します。

里山空間活用

森のようちえん

整備後の里山空間を人が集う場所、学びの場所にする事で、毎日のように通える里山にしていきたいと考えています。

森の中で子ども達の自主性を尊重し自由

に遊ばせています。幼児期に里山の中で過ごす機会を設けることで、美濃加茂市の里山を「里山の大切さを知り心豊かな子が育つ場」にしたいと考えています。子ども達が遊ぶ森にはアベマキがたくさんあります。アベマキに登ったり、切り株からジャンプしたり、どんぐりで遊んだり、アベマキは子ども達の遊び場になっています。



▲アベマキは子ども達の遊び場

里山資源活用

アベマキ学校机プロジェクト

里山の整備と地域材の循環の仕組みを実現するため、また、子ども達に地域の里山を大切にすることを育むため体験を通じて学んでいくことを目的に、アベマキが多く自生する山之上地区の小学校で「アベマキ学校机プロジェクト」を実施し、地域資源と地域の学校を結びつけることを目指しています。

この「アベマキ学校机プロジェクト」は、

山之上地区に多く自生するアベマキを地元の山之上小学校の学校机の天板として活用するだけでなく、アベマキの伐採現場や製造過程を子ども達に体験・見学してもらうことで、林業という職業、木工製品の製造過程を知ること、地域の里山でプロジェクトを実施することで「地域の木を使う」ということをより現実的に里山資源活用を感じてもらおうこと、そして、市内・県内だけでなく国内に多くある樹木を使っていく必要性などを学ぶ環境教育として位置づける事業です。こういった取組みが「ウッドデザイン2015林野庁長官賞」「キッズデザイン2018審査委員長特別賞」を受賞することができました。



▲アベマキ伐倒体験



▲アベマキ学校机

このプロジェクトは、子ども達に4年生から関わってもらっています。4年生で「アベマキの森」の働きを知り、アベマキを身近な樹木として認識してもらうことからは

じめ、5年生でアベマキの伐倒を見学し、「山の仕事」を知ってもらいます。そして6年生でアベマキが学校机になる過程を見学し、丸太から木製品になることを知り、そして出来上がった天板を子ども達自らの手で取り付け、翌年度の新1年生に贈っています。

こういった取組みには、地元の森林組合、地域の製材会社の協力が欠かせません。地域ぐるみで子ども達に「地域の木を使う大切さ」を伝えていきます。



▲山之上小学校の児童たち

地域木工作家によるアベマキ製品

「地域の木を地域の木工作家が作品にする」を目指して、市内の木工作家の手で様々なアベマキ製品を製作してもらっています。

アベマキは、子ども達が使う学校机以外にもいろいろな製品に生まれ変わり、生活の一部になりつつあります。こうして、当たり前のようにアベマキが生活に活用されると、里山が価値あるものに再生し、持続可能な里山整備ができるよう、今後もアベマキを「里山再生の象徴」として位置づけ、計画的な整備、里山空間の活用、里山資源の活用をめざしていきたいと考えています。

詳しい内容を知りたい方は

TEL0574-251211(代)

美濃加茂市役所 農林課まで

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”



県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

清流の国ぎふ地域活動支援事業 ～住民主体の創意工夫ある森づくり・川づくり～

平成24年度から平成29年度までの6年間で延べ238件の事業が実施されました。
平成30年度は、60の団体がそれぞれ特色ある事業を実施しています。

団体等名	事業名
ぎふし森守クラブ	ふれあいの森・森林教育・森林整備活動
三輪の里山を守る会	三輪の森づくり活動
竹林救援隊	竹林の間伐と放置竹林を無くするための啓発活動
船来山古墳群ボランティア	船来山古墳群環境整備事業
本業林研クラブ	外山地域森づくり
四国山を守る会	四国山香りの森公園整備・植林・ふれあい体験事業
山県楽しいプロジェクト	「フィールドワークショップツアー」&「体験型保育イベント」I N山県
ぎなんプレーパークの会	ぎなんで自然を体験しよう 2018～プレーパーク～
長良川自然学校	長良川 川の学校事業
森・川・海ひだみの流域連携協議会	森・川・海ひだみの流域活動と流域活動フォーラムの開催
長良・自然とくらし楽校	身近な環境保全活動と森・川・海の流域体験から、自然の恵みを活かして考える体験活動事業
ピープルズコミュニティ	ぎふ地球環境塾
大垣市環境市民会議	ふるさと大垣環境教育事業
加賀野名水保存会	みんなの加賀野名水
木曾三川子ども狂言クラブ	やまかわさとみの体験作文と新作狂言
木の駅上石津実行委員会	間伐材の有効活用
雲上の櫻愛好会	池田町の宝樹 雲上の櫻を未来に残そう、増やそう
日本山岳会岐阜支部	私たち県民の森林づくり
ぎふいび生活楽校	風の谷 森林の楽校
立木学園	木育推進事業
グリーンウッドワーク協会	伐って、使って、植える 広葉樹の森づくりとグリーンウッドワーク事業
郡上漁業協同組合	第9回源流の森育成事業
郡上市保育研究協議会	郡上森づくりと人づくりを結ぶ木育研修事業
みのかもアルプホルンクラブ	アルプホルンを吹こう
山之上まちづくり協議会	山之上まちづくり活性化プロジェクト
三和まちづくり協議会	みわまちづくりプロジェクト
とみか創緑塾	里山活用管理システム構築パイロット事業
半布里の郷	富加の自然を守る里山整備活動
可茂森林組合	H30可茂南部100年の森林づくりプロジェクト【エコ薪】でCO ₂ 削減せよ!
岐阜森林愛護隊	里山林保全活動
美濃白川どんぐり会	落葉樹林植林・育成、河川環境保全事業
川合まちづくりの会	子どもたちに引き継ぐ川づくり推進事業
若葉会	未来につなぐ森・川づくり推進事業
木曾川左岸遊歩道友の会	木曾川左岸遊歩道等周辺整備事業

団体等名	事業名
曾木まちづくり協会	曾良山登山道整備事業
小里川ダム里山教室	2018秋の小里川ダム湖周ウォーキング
明日の稲津を築くまちづくり推進協議会	黒の田湿地の環境保全及び周遊木道整備事業
土岐川・庄内川源流の森委員会	土岐川・庄内川源流の森の資源、恵みを発見し生かす方策の提言、人づくりと上下流域の交流を通じての森、川、里づくりの活動
野井山造りの会	やろまい野井の山造り活動事業
吉田地域活性化委員会	すわがね自然体験事業
あけちまちづくりフォーラム	明智城跡竹林整備と遊歩道整備事業
美濃の森造隊	学びと実践の森造り事業
いいじ森の恵み活用塾	いいじ森の恵み活用塾～里山整備と木の活用
奥矢作森林塾	峰地区における森づくりと担い手づくり活動事業
里山を守る会武並	里山・みんなの森づくり事業
イワクラ里山倶楽部	里山の環境保全、資源の循環利用事業
いのちもり	森や川に触れ、活動を通して未来を考える
付知町優良材生産研究会	未来を担う中学生への森林環境教育
加子母小郷区	加子母大杉地蔵堂地区乳子の池池活性事業
加子母むらづくり協議会	かしも学びの森 木の匠育成事業
付知町まちづくり協議会	子どもたちのための清流付知川環境保全事業
保養地の山をよくする会	美しく楽しい四美の森づくり
竹原東部森林造成組合活動組織	竹原東部里山整備事業
中切区里山環境整備活動組織	中切区里山整備事業
野上里山整備隊活動組織	野上里山みどりの回廊整備事業
森守クラブ合同会社まつぼっくり	里山の資源を活用した里山づくり推進事業
森林資源活用フォーラム	飛騨地域におけるアロマ資源の活用及び小規模林業の試行
二本木生産森林組合	飛騨高山「彦谷の里」里山活用と広葉樹林育成事業
ひだの未来の森づくりネットワーク	フリーマガジンと協働した森林に関わる情報発信活動
高山南の森保全の会	高山南エリア里山林整備事業



可茂森林組合 (H30可茂南部100年の森林づくりプロジェクト【エコ薪】でCO₂削減せよ!)



ピープルズコミュニティ (ぎふ地球環境塾)

【恵みの森づくり推進課 倉田 祥彦】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8472 恵みの森づくり推進課まで

複雑に見える森づくりを

シンプルに考える

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 横井 秀一

●多様な施業は難しいか

長伐期施業、択伐林施業、広葉樹の森づくり、針広混交林化、広葉樹林化、水源の森づくり、天然力を活用した更新、複層林施業、将来木施業。これらは、最近に関わった研修や技術相談のテーマです。これまで進められてきたスギ・ヒノキ・カラマツなどの針葉樹による短伐期人工林施業を直球とすれば、変化球の投げ方がわからないということのようです。

確かに、多くの人はこれらの変化球を投げたことがないかもしれません。もしかしたら、投げてみたものの暴投になってしまった経験があるかもしれません。そのためか、こうした施業は難しい、その技術は職人技だという声をよく耳にします。

本当にそうでしょうか。考えてみてください。スギやヒノキでなくても、育てようとするのはスギ・ヒノキと同じ樹木であり、同じ森林です。やろうとする作

業も、「必要なものを導入する」か、「不要なものを除去する」かのどちらかです。これらのことを突き詰めていけば、複雑そうに見える多様な施業も、本質はどれもシンプルなものだということに気が付きます。

●押さえておくべき四つの原則

シンプルに考える第一歩は、対象が樹木という生き物であり、森林は生き物の集団であるということを認識することです。そこで起きている様々な現象は、科学(生物学や生態学など)によって説明できます。そして、最も大事なことは、もっとも基本的なところにあるものです。

「必要なものを導入する」というのは、更新の場面です。そこで押さえるべき科学的知見の大原則は、**①森林が攪乱を受けなければ更新は始まらない、②更新材料がなければ更新はできない、③更新材料がなければ更新はできない、④更新材料がなければ更新はできない**という二つです。更新させたい種の更新材料(種子

や萌芽可能な株)が現地にあれば天然更新が可能かもしれませんし、なければ植栽によらなければならぬことは自明です。そもそも、更新がはじまるような攪乱がなければ、まだ更新を考える段階にないこともわかります。

「不要なものを除去する」というのは、保育のための技術です。そのとき押さえたいおかなければならない大原則は、**③光条件が十分でなければ樹木は上長成長(樹高成長)できない、④十分な着葉量がなければ樹木は肥大成長できない**、という二点です。育てたい個体を育てるためにはなにをすればよいかは、これらの原則からみれば簡単にわかります。上長成長が不十分なら、その個体の樹冠に光が当たらないよう、上方にある樹冠を除去する必要があります。十分な着葉量を確保するためには、樹冠に光が当たるようにすると同時に、樹冠の拡張(枝の伸長成長)を邪魔する競合樹冠を除去すればよいのです。

●作業の質を高めるための知見

もちろん、この四つの原則だけでは質の高い作業は行えません。作業の質を高めるには、より多くの科学的知見が必要です。裏を返せば、多くの科学的知見を持っていると、作業の質を高められるということです。

その知見とは、種子の散布様式、発芽様式、初期成長速度、耐陰性、シユートの伸長様式、樹形、好適立地などです。これらは、種ごとに異なる特性ですが、似た仲間のグループで捉えることもできます。

これらの科学的知見は、実際の樹木や森林を観察することで気づくことができます。一方で、本を読んだり人に教わったりして、知識として身に付けることもできます。両者のバランスをとりながら自分のものにするのが大事だと思います。

科学的知見に基づく技術は、多様な現場に対応しようとするとき、強い味方になるはずですが、それでも、現場で困ることとはあるでしょう。そのときは、何がいけなかったかをシンプルに考えることで、理由がわかり、解決策を見つけることができるかもしれません。シンプル・イズ・ベストです。

山地災害リスクを考慮した

木材生産のために

森林研究所 ● 白田 寿生

はじめに

木材生産の基盤となる路網を作設する際には、地形の改変を伴うため、場所の選定や作設方法を誤ると、斜面崩壊などの山地災害を引き起こす恐れがあります。また、皆伐などの集団的な伐採についても、根系が有する斜面の崩壊防止機能に影響を及ぼすことから、地形条件によつては、山地災害を誘発する恐れがあります。このため、木材生産を行う際には、山地災害リスクに対して十分な配慮が必要となります。

そこで、当所では、国の研究機関や大学等と連携し、山地災害リスクを考慮した木材生産を支援するための研究を進めています。今回はその取り組みの一部を紹介いたします。

木材生産における災害リスクの考え方

災害リスクを考慮した木材生産を行うためには、次の2つの視点が必要となります。

1つ目は「保全対象との位置関係」です。木材生産活動に伴い、万が一、斜面崩壊が発生した場合でも、人家等の保全

対象への加害は回避しなければなりません。このため、事業地選定の際には、斜面崩壊が発生した場合に人家などの保全対象へ土砂が到達する恐れがあるかについて、あらかじめ確認しておく必要があります。

2つ目の視点は、「山地の崩壊リスク」です。斜面崩壊は、水が集まりやすく、地盤が風化した傾斜地で発生しやすくなります。このため、地図や現地情報を手掛かりに、対象の森林で土砂移動が起

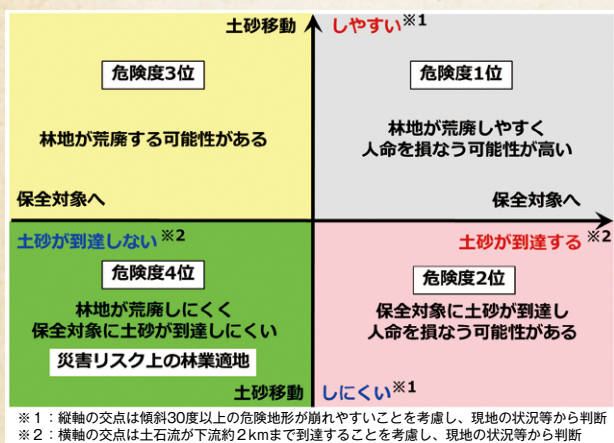


図1. 災害リスクの概念図

こりやすいか否かを判断する必要があります。

これら2つの視点を整理すると図1のようになります。保全対象へ土砂が到達する恐れがある危険度1位と2位の箇所では、崩壊が発生すると、人命にかかわる被害になる可能性があることに留意が必要です。特に危険度1位の箇所は、土砂移動も起こりやすいため、基本的に路網の作設や皆伐などの集団的な伐採は不向きであると考えられます。つまり、木材生産を行う森林は、危険度4位の箇所を中心に検討することが望ましいということがわかります。

保全対象に土砂が到達する恐れがある斜面の抽出

全国各地の土石流発生箇所を調査した資料^{※1}によると、流木を含んだ土砂は下流2 km程度まで到達することが報告されています。このため、基本的には、崩土は、土石流化により、下流2 km程度まで到達することを想定しておく必要があると考えます。

さらに崩土が保全対象へ到達する箇所を斜面単位で判断したい場合には、過去の研究で提唱された崩土の到達距離を推定する式からリスクが高い斜面を抽出することができます(図2)。図2の例では、紫色に塗られた斜面で崩壊が発生すると、保全対象である建築物へ土砂が到達することを示しています。ただし、この図は、机上の限られたデータから作成されており、実際の災害発生時とは異なる可能性があるため、現地の情報も考慮し

ながら木材生産を行う場所を検討する必要があります。

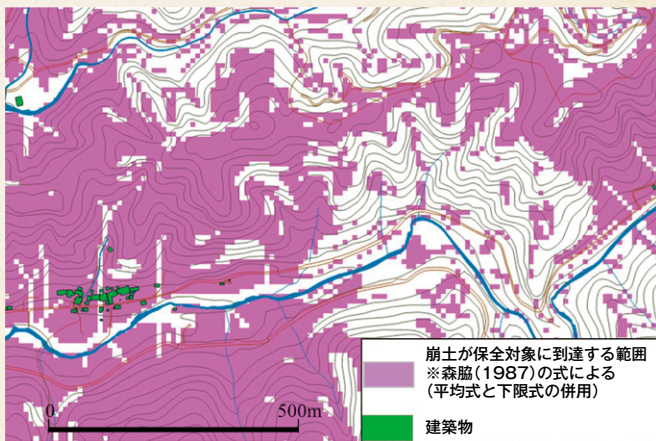


図2. 保全対象配慮範囲図の例

おわりに

木材生産に適した森林を選定する際には、これらの資料を参考にしながら山地災害リスクを考慮することで、木材生産活動に伴う山地災害のほとんどを未然に防ぐことができます。

当所では、山地災害リスクを考慮した木材生産に関する技術支援も行っていますのでお気軽にご相談ください。

※3 平成26年度流域山地災害等対策調査(流木災害対策手法検討調査)委託事業報告書(林野庁)

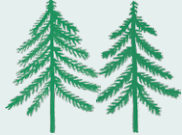
● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-333-2585

森林研究所まで



郡上森林マネジメント協議会（仮称） 設立に向けた普及活動



■郡上農林事務所 林業普及指導員 和田 将也



▲林業事業者を対象とした危険地形把握のための研修会

郡上地域では、平成27年9月に稼働した大型製材工場に向けて木材を安定供給するため、森林経営計画団地を

環境保全と木材生産の両立を 目指した郡上の山づくり

郡上市は、岐阜県の中央部に位置し、管内森林面積92千haのほとんどが民有林で、そのうち53%にあたる49千haが人工林となっています。今回は、郡上市が中心となって設立を目指している「郡上森林マネジメント協議会（仮称）」（以下「協議会」）の設立に向けた取り組みと地域が目指す新しい森林管理の仕組みづくりを中心に紹介します。

新たな仕組み構築の必要性

そこで、郡上市では林業事業者への皆伐事前指導、危険地形を把握し災害リスクを低減させるための研修会などを開催し、将来を見据えた健全で実り豊かな森林づくりを進めています。

当地域では、管内民有林面積89千haの20%にあたる18千haで森林経営計画が作成されていますが、今後も森林経営計画の作成面積を増やしていく必要があります。

そこで、傾斜区分図及びゾーンニング図面と森林経営計画作成位置図を重ねてみると、傾斜が緩く林道から近いなど条件のよい森林では一定間隔を置いて繰り返し森林経営計画を作成し森林整備が行われているものの、急傾斜の森林では計画があまり立っていないことが分かってきました。

また、森林経営計画制度の開始以

来、初めの計画期間（5年間）が経過しましたが、一部の森林所有者や林業事業者からは「森林経営計画を立てたけど、実行管理ができないので2回目の計画は立てられない」などの切実な意見が出てくるようになりました。



▲地域関係者に対する協議会の説明

このような現状を打開するためには、地域の森林を一元管理する新しい仕組みが必要ではないかとの声が郡上市森林づくり推進会議等を通じて聞かれるようになり、今年度一年間かけてこれからの森林管理の仕組みについて検討を行っていくことになりました。

現在の取り組み

平成31年4月に新たに森林経営管

理制度が開始され、また森林環境譲与税(仮称)の開始が見込まれることから、郡上市ではこの新たな制度を活用して市内の森林管理体制をより一層強化していくため、平成30年度中に地域の森林を一元管理するための協議会の設立を目指していくことになりました。

現在、岐阜県地域森林監理士をはじめ、森林組合、林業事業者、木材事業者、郡上市役所、郡上農林事務所で構成する検討グループを立ち上げ、協議会の仕組みについて日夜熱い議論を行っているところです。

また、林業成長産業化地域創出モデル事業(以下「モデル事業」)に地域関係者の意見を集約し事業提案した結果、郡上地域が選定され、平成30年度からの5年間取り組むことになりました。

モデル事業の主な取り組みは、次のとおりです。

- ・ 正確な森林資源を把握するための高精度森林情報の整備と活用。
- ・ 伐採情報の管理や労務管理の省力化を目指したタブレット型情報端末と森林クラウド・GISの構築。
- ・ 市内外の林業事業者、運送業者、製材工場等との伐採情報の共有を目指すためのサプライチェーンマネジメント

システムの構築。

協議会が担う 新たな森林管理の取り組み

前述した森林経営計画の作成に向けた集約化が進まない根本的な原因の一つに、所有者が不明であること、所有者が分からない、あるいはその両方が分からないことが集約化の妨げになっていることがあります。

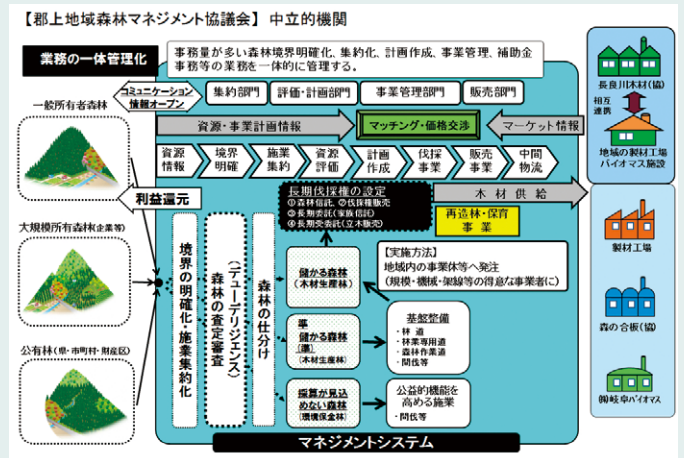
そこで、郡上市や郡上農林事務所としては、協議会の最優先の取り組みとして境界明確化に取り組んでいく必要があると考えています。

また、郡上市は森林経営管理制度において、森林所有者への意向調査を行わなければなりません。

境界明確化や意向調査については、郡上市からの委託事業による方式を検討しており、これら2つの事業が協議会の当面の業務となります。

それ以外の協議会の機能として、森林経営計画の作成支援を行うこととしており、市が収集した森林・境界・所有者情報については、協議会を通じて既に森林経営計画を作成している林業事業者等へ一定のルールのもとで提供し、森林経営計画の拡大を図ります。

協議会が主体となって行う新たな



▲モデル事業で提案した協議会の構想案

森林管理とモデル事業によるICTを活用した取り組みを併せて進めることで、各林業事業者の管理部門における経費の削減が可能となり、結果的に森林・林業・木材関係者の所得向上や森林所有者への還元額の増加につながっていくものと考え、協議会を中心とした地域の仕組みの構築を進めているところです。

今後の取り組み

今後は、先進事例の調査・研究や地



▲伐採及び植栽事業者間の連携で進みつつある主伐・再造林

域関係者の意見を取り入れ、協議会業務の執行体制及び執行方法の検討を進め、平成31年2月の設立と同年4月からの業務スタートを目指していきます。

協議会は、地域関係者と行政が連携して取り組む郡上地域の新しい森林管理の仕組みなので、市民及び森林所有者や地域の森林・林業・木材関係者の皆さんに丁寧に説明し、将来を見据えた郡上地域の森林・林業・木材産業の発展のため、引き続きオール郡上で取り組んでいきたいと思っております。

詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-1671-1111(代)

郡上農林事務所まで

第58回治山研究発表会に参加しました。

平成30年10月3日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第58回治山研究発表会（主催：治山研究会、事務局：林野庁治山課）が開催されました。治山研究発表会は、治山事業の発展に資することを目的に、全国の治山事業関係者が集い、日頃から研究してきた技術研究等の成果を発表する場です。今回の発表会では4部門、全48項の発表があり、岐阜県からは「調査・施工時の効率性向上を目指した取組」部門で「ドローンを活用した写真測量による地形変化の把握（飛騨農林事務所）」を発表しました。この部門における研究成果の大半が、治山事業におけるドローンや航空レーザ測量の活用に関連した内容でした。

この発表会が県内治山事業関係者の励みとなり、これからも治山事業の発展のため研鑽されることを期待します。



写真-1 岐阜県代表の発表



写真-2 パネル展示

【治山課 萬谷 亘哉】 ●詳しい内容を知りたい方は [TEL 058-272-1111](tel:058-272-1111) 内線(3167)治山課まで

中部北陸自然歩道の紹介

11月号では東海自然歩道を紹介しました。今月号は岐阜県にあるもう1つの自然歩道「中部北陸自然歩道」を紹介いたします。

中部北陸自然歩道は、新潟県から滋賀県まで8県にまたがる旧街道の北国街道、三国街道、中山道をメインルートとした総延長4,029kmの長距離自然歩道で、平成7年から13年にかけて関係県等が国の計画に基づき整備したものです。

岐阜県内は11市町村、約378kmにわたり、御嵩町～白川村（旧益田街道～越中街道）、高山市（木曾街道）、恵那市～中津川市（中山道）の3ルートをメインとして、1日単位で歩くことのできる26のコースを紹介しています。

コースの一例を挙げると、天生湿原とブナ原生林のみち（約9km、飛騨市）、飛騨ブリ街道と飛騨桃のみち（約8km、高山市）、益田街道禅昌寺を訪ねるみち（約10km、下呂市）、森蘭丸の里めぐりのみち（約4km、可児市）、藤村をしのぶ文学と歴史のみち（約4km、中津川市）など、いずれも「清流の国ぎふ」の魅力を実感できるコースです。

県では安全にご利用いただくため、市町村と連携したパトロールや草刈、清掃、歩道の危険箇所や老朽化した標識の補修等を行っています。

各コースの詳細はインターネットで「岐阜県 中部北陸自然歩道」と検索すると県のホームページに一覧表を掲載しています。無理のないスケジュールを組んでいただき、手軽に楽しく歩いて、県内各地の自然、歴史、文化を再発見してみてください。



桜の湖そばの花(中津川市坂下)

【環境企画課 大島 愛彦】 ●詳しい内容を知りたい方は [TEL 058-272-1111](tel:058-272-1111)(内線2698) 環境企画課自然公園係まで

国有林の現場から 未利用材(D材)の利用拡大にむけた 現地勉強会を開催しました

国有林では、森林資源の有効活用や、再造林時の地拵コストの低減などを目的として、林地に残置されていた枝条・端材等の未利用材(D材)の有効活用に取り組んでいます。今般、岐阜森林管理署の主催により、管内の生産請負事業者および地域の立木販売業者等を対象に、D材の搬出や流通等についての現地勉強会を開催しました。

勉強会では、岐阜県瑞穂市で木質バイオマス発電施設を運営している(株)バイオマスエナジー東海およびバイオマスチップ集荷業者である(有)エコヤードギフからも参加をいただき、それぞれの立場から、自由闊達な意見交換を行いました。

勉強会に参加した皆さんから出された意見のうち共通したものととして「事前調整が非常に大切」というものがありました。これまで未利用となっていた枝条・端材等の集材・出荷行程は、既存の作業システムには当然ながら組み込まれていません。このことから、出材や運材等の関係者と事前に入念なコミュニケーションを取る必要があることは自明です。今回の勉強会では、「中間土場等、林地に隣接した広めの土場に集積してほしい」というD材集荷業者側の意見と、「小まめに取りに来てほしい」という生産事業者側の様々な意見が双方から出されてきました。このような率直な意見を、腹を割って出し合い、「出来ること」「出来ないこと」の摺り合わせを事前に行き詰めておくことが、未利用材の利用拡大を推進するためのポイントの一つと考えます。



【岐阜森林管理署】

森林・林業関係イベントカレンダー(12~2月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
12月3日(月)	刈払機取扱作業者安全衛生教育	●講習時間：学科 9:20~15:30 実技 15:30~16:30 ●申込：開催日の10日前まで ●受講料：11,340円(本代含む)(振込み) ●定員：30名(定員になり次第締め切ります。)	森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林業業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月11日(金)	造林作業の指揮者等安全衛生教育	●講習時間：8:50~16:30 ●申込：開催日の10日前まで ●受講料：11,000円(本代含む)(振込み) ●定員：30名(定員になり次第締め切ります。)	森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林業業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月16日(水)~ 1月17日(木)	木材加工用機械作業主任者技能講習	●講習時間：16日~17日 8:30~17:40 ●申込：開催日の10日前まで ●受講料：17,280円(本代含む)(振込み) ●定員：30名(定員になり次第締め切ります。)	森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林業業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月22日(火)~ 1月23日(水)	リスクアセスメント担当者安全衛生教育	●講習時間：22日(林業) 9:20~16:30 23日(製造業) 9:20~16:30 ●申込：開催日の2週間前まで ●受講料：11,800円(本代含む)(振込み) ●定員：30名(定員になり次第締め切ります。)	森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林業業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月5日(火)	刈払機取扱作業者安全衛生教育	●講習時間：9:30~15:30 学科 15:30~16:30 実技 ●申込：開催日の10日前まで ●受講料：11,340円(本代含む)(振込み) ●定員：30名(定員になり次第締め切ります。)	森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林業業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月6日(水)~ 2月7日(木)	伐木・チェーンソー作業従事者特別教育	●講習時間：6日 学科 8:30~17:40 7日 実技 8:30~17:30 ●申込：開催日の10日前まで ●受講料：18,900円(本代含む)(振込み) ●定員：30名(定員になり次第締め切ります。)	6日 学科 森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 7日 実技 岐阜県森連岐阜支所(関市倉知字物見山) 林業業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月19日(火)~ 2月22日(金)	フォークリフト運転技能講習 【受講資格】 自動車普通運転免許所持者	●講習時間：1日目 8:30~16:30 学科 16:30~17:30 学科試験 2~4日目 8:30~17:30 実技試験 ●申込：開催日の20日前まで ●受講料：31,860円(本代含む)(振込み) ●定員：30名(定員になり次第締め切ります。)	(学科)伊自良中央公民館(山県市大門912-1) (実技)きふ農協旧伊自良共選場(山県市洞田127-5) 林業業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195

コラム

「登山」

数年前から登山を始めました。とはいつても、標高の高い山への登山は年1回程度です。始めたきっかけは、職場の同僚から送られてきた綺麗な写真を見て「登りたい!」と思ったところからです。ある程度の装備は揃っていたので気軽に始めることができ、日頃はジョギングもしていることからトレーニングの一環としてもよいのではと考えました。

空木岳・笠ヶ岳・北岳・洞沢と、毎回どの景色も自然の雄大さ・美しさを実感でき、道中の同僚との会話や食事を楽しみながら登っていて、来年はどの山に登ろうか考えるのが楽しみです。

ですが、残念なことに最近、山を見ると太陽光発電のパネルが多くみられ、景観が損なわれています。環境にやさしい再生可能エネルギーで「エコ」なのかもしれませんが、個人的には人間の「エコ」なのではと感じています。近い将来にパネルが負の産物とならないようにしてほしいものです。

「森林のたより」編集委員 長谷部 達也

イベント情報

連載 **1月1日発行**

- 山の歳時記(161)
- 山のおじゃまむし(330)

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(73)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(71)

清流の国ぎふ森林・環境税

わがまちの森林・環境行政(25)

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報 その他

1月号 予定

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考	
第1674回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,500	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格	
			16~18cm	11,700	—		
		4 m	20~22cm	13,800	—		
			24~28cm	13,000	17,000		
			30cm以上	12,000	25,000		
	6 m	16~18cm	13,000	—			
		ひのき	3 m	16~18cm	17,200		—
				20cm以上	15,300		—
			4 m	16~22cm	17,500		—
		24~28cm		18,000	—		
30cm以上	16,000	—					
第1250回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,000	—		
			24~28cm	11,500	—		
		30cm以上	11,000	36,500			
	ひのき	3 m	16~18cm	19,500	—		
			20~22cm	18,000	—		
		4 m	24~28cm	15,500	25,600		
	30cm以上		16,000	75,000			
	6 m	16~20cm	26,000	—			
		まつ	4 m	24~28cm	9,000	—	
				30cm以上	9,000	—	
	ひめこ	4 m	24~28cm	12,000	—		
			30cm以上	13,000	22,000		
		6 m	30cm以上	22,000	—		
	第1582回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~20cm	12,900	13,400	
22~28cm				13,000	18,000		
30cm以上元			13,800	50,000			
ひのき		3 m	16~20cm	17,600	40,000		
			22~28cm	14,900	40,000		
		30cm以上元	19,500	120,000			
			13cm以下	9,000	—		
		4 m	22~28cm	15,700	55,000		
			30cm以上元	21,000	330,000		
6 m		18~20cm	27,000	340,000			
	まつ	4 m	22~28cm梁	7,000	—		
			30cm以上元	9,000	—		

木材市場

11月8日 第6回ぎふ優良材展(記念市)を開催
全般的に、価格はやや上向き、良質材への入札は活発

【商況】

スギ並材太物(50cm上~)3m需要あり、ヒノキ2m元曲がりは売りづらく造材の再検討を。合板向けスギ・ヒノキと製紙パルプ向け広葉樹原木を予定される方は、納材規格変更となっており共販所担当者まで一報ください。(岐阜)

スギ元玉良材の引き合いが強く旺盛。ヒメコ元木太物が人気だが中目クラスは元気なし。広葉樹良材は相変わらず人気で、ホウ、サクラ、ミズメ、マクシミが強気。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m・3m・4m・6mは、応札多く横ばい。ヒノキ並材は3m・4m(16~28cm)横ばい、6m(16~20cm)価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木、良材は応札多くやや高値、二番玉並材は3m・4m(16~28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(東濃)

製品卸売標準価格 (10月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松)特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集 ウ成 ド材	柱	3000	105	105	国産5層	61,000	(2,000)	→
		3000	120	120	国産5層	61,000	(2,630)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (10月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	317	米梅	ヘム(アラスカ産)	299
	コースト(目荒)	324	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)



Zマーク金物

木材用語一メモ

木造軸組工法(在来工法)の住宅に用いる接合金物で、(公財)日本住宅・木材技術センターが規格化したもの。住宅金融支援機構(旧住宅金融公庫)仕様書では、Zマーク表示金物またはそれと同等以上の金物の使用が定められています。